

# 国語科学習指導案

自・情1 (のびっこ3)	授業者	T1	前田	晋吾	T2	津田	菜保
自・情2 (のびっこ4)	授業者		岡田	竹子	介助員	杉村	淳奈
自・情3 (のびっこ5)	授業者		森田	浩之	介助員	山田	香子

## 1 学年・組

### 自閉症・情緒障害特別支援学級1組

(3年3名・5年1名・6年4名)

合計8名)

### 自閉症・情緒障害特別支援学級2組

(2年2名・4年2名・5年2名・6年1名)

合計7名)

### 自閉症・情緒障害特別支援学級3組

(1年2名・2年2名・3年1名・4年3名)

合計8名)

## 2 単元名 ぼくたち・わたしたち俳句探検隊 ～『俳句絵本』を作ろう～

### 3 単元について

- 本単元では、学習指導要領の「C読むこと」(オ)「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。」(第1学年及び第2学年)、(オ)「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」(第3学年及び第4学年)、(オ)「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」(第5学年及び第6学年)をねらいとしている。そのために、「俳句絵本を作る」という言語活動を設定した。春夏秋冬の4つの季節ごとに俳句を作り、一年間かけて一冊の絵本に仕上げていくことで、見通しをもちながら学習を行うことができる。そして、作成した俳句絵本で最後に読書会を行うことを通して読書への興味を喚起させたい。また、それぞれの俳句を発表し、お気に入りの言葉や俳句のよさを交流する活動を通してコミュニケーション力を培うことができると考えられる。

この単元では、年間を通して季節に合った俳句を作る活動を行う。俳句作りは、自分の思いを書いたり話したりして伝えにくい児童にとって取り組みやすい。俳句を作ると季節を多面的に捉え、言葉のもつおもしろさに気付き、語彙力を向上させることができる。また、発見力やひらめき力をきたえ、感性や情操を育み、自然を大切にする心を養うことができると考える。

- 本学級は、自閉症・情緒障害特別支援学級である。児童は、昨年度「オリジナル俳句集」を作った。その中で、季節ごとの俳句作り、俳句暗唱、歳時記作り、お気に入りの俳句紹介を行ってきた。児童は、毎月2句の俳句を作る活動を通して、五七五で作る俳句に慣れてきた。また、様々な体験活動を仕組み、その体験からたくさんの言葉を集めたことで、どの児童も楽しんで俳句を作ることができるようになってきた。そして、作った俳句から自分のお気に入りを見つけ、理由とともに発表させたことで、自分の言葉で発表することができるようになってきている。しかし、体験していないことから想像して俳句を作ることが難しく、作った俳句の意味を説明したり、推敲したりすることができる児童は少ない。個々の児童の実態は、次の通りである。

[自閉症・情緒障害特別支援学級1組 (のびっこ3)]

3年A・・・国語の学習を苦手とし意欲が低い。文字を書くことに抵抗があり、分からない文字があると落ち着かなくなる。席に座って学習することが難しい。俳句は、自分の意図にあった見本があるとそれを真似して作る。発表の型があると発表できる。

3年B・・・言葉がたくさん提示してあると、その言葉をつなげて俳句を作ることができる。発表の型を示すと、自分の考えをもって発表できる。

- 3年C・・・言葉がたくさん提示してあると、その言葉をつなげて俳句を作ることができる。発表の型を示すと自分の考えがもてるが、人前で発表することに抵抗がある。
- 5年D・・・一人で俳句を作ることができる。自分の考えがもて、友達の考えと比べながら発表することができる。
- 6年E・・・席に座って学習することができるようになってきたが、分からないことやできないことがあると、断固としてやらなくなる。語彙も少なく、人前で発表することに抵抗がある。
- 6年F・・・自信がもてず、発表の声も小さい。語彙が少なく、自分の考えをもつことが難しい。
- 6年G・・・五七五で俳句を作ることができるが、語彙が少なく、内容が深まらない。発表の型に当てはめて発表することができるようになってきたが、友達の考えと比べることは難しい。
- 6年H・・・季語を入れずに俳句を作ることがある。主述がずれたり、文末がおかしかったりする。自分の考えをもって発表することができるようになってきたが、友達の考えと比べることは難しい。

〔自閉症・情緒障害特別支援学級2組（のびっこ4）〕

- 2年A・・・漢字の習得や読み取りには、時間がかかるが、粘り強く取り組んでいる。俳句作りでは、自力では五七五の型にはならないが、支援を受けながら俳句作りを楽しんでいる。
- 2年B・・・発表の声は小さいが、一生懸命自分の考えを発表しようとする。見たことや経験したことを素直な言葉で表現する。支援を受けながら、それを五七五の型にはめて、俳句作りをする。
- 4年C・・・物語文の登場人物の思いを理解することが難しい。俳句作りを始めたころは何を書いているかわからなかったが、最近では、見たことや心に残ったことを俳句にすることができるようになった。
- 4年D・・・読書が好きで、語彙が豊富である。最初、俳句作りに抵抗があったが、自然に触れたり植物を観察したりするうちにそれを俳句で表現するようになった。
- 4年E・・・粘り強く学習に取り組むことがなかなかできないので、漢字の習得が難しい。しかし、俳句作りは好きで、見たことや感じたことを素直に表現する。
- 5年F・・・語彙が豊富で、見たことや感じたことを俳句にすることができる。文章を書くことは嫌がるが、俳句作りには興味をもっている。また、俳句に込められた思いを発表したり、友達の俳句のよさを見つけたりする。
- 5年G・・・春夏秋冬の自然を俳句にすることが好きである。見たことや感じたことを素直に表現する。発表は苦手だったが、5年生になって、自分の考えを発表するようになった。
- 6年H・・・俳句作りは好きで、意欲的に取り組んでいる。擬人化や倒置法などを取り入れ、表現を工夫している。自分の考えや思いも進んで発表する。

〔自閉症・情緒障害特別支援学級3組（のびっこ5）〕

- 1年A・・・平仮名を見て写すことはできるが、発音と文字がつながっていないため、思い浮かんだ言葉を書くことが難しい。周囲の視線を気にして、人前で発表することに抵抗がある。
- 1年B・・・平仮名を覚えつつある。言葉集めの学習では、思い浮かんだ言葉を発表することができる。
- 2年C・・・全体への声かけを聞いて自発的に学習を始めることは難しい。発表の型を示すと人前で発表をすることができる。
- 2年D・・・提示された言葉の中から気に入った言葉を選んで俳句を作ることができる。発表の型を示すと人前で発表をすることができる。

- 3年E・・・五七五で俳句を作ることができる。自分の考えをもって発表することができるようになってきたが、友達の考えと比べることは難しい。
- 4年F・・・五七五で俳句を作ることができるが、語彙が少なく、内容が深まらない。発表の型に当てはめて発表することができるようになってきたが、友達の考えと比べることは難しい。
- 4年G・・・自発的に五七五で俳句を作ることが難しい。発表の型に当てはめて発表することができるようになってきたが、友達の考えと比べることは難しい。
- 4年H・・・五七五で俳句を作ることができるが、感情を表す言葉を使うことが多い。自分の考えや友達の作品の良いところ見つけて発表することができる。

## 児童実態からみる課題

### 【課題となる力】

- 自分の考えをくわしく説明する力。
- 友達の考えと比べて、考えを広げたり深めたりする力。

### 【指導上の課題】

- 語彙が少なく自分の考えがくわしく書けない児童や友達の考えと比べて発表することができない児童への支援が不十分だった。

- 指導にあたっては、児童が『俳句探検隊』となることで、楽しんで活動させていく。そして、他学級の友達が作った『俳句絵本』を集めて、読書会を開くことを単元のゴールに設定することで、相手意識や目的意識をもたせて取り組ませたい。  
この課題解決に向けて、0次では、俳句のきまりを確認し、俳句絵本の見本を見せて、学習への興味をもたせる。第一次では、つけたい力を確認した後、単元のゴールを決め、学習計画を一緒に立てていく。第二次では、俳句を作ったり、作った俳句で俳句コンテストを開いたりする。俳句は、春夏秋冬の4つの季節に分けて書くようにする。植物や動物など生活に関する俳句や学校行事に関する俳句を作るようにする。それぞれの俳句を作った後には、俳句に合った写真や絵を添えたり、俳句の説明文を書いたりする。そして、友達の俳句を見ながらお気に入りの俳句を見つけ発表し合う。第三次では、読書会を開いて読んだ感想を伝え合うことで読書への興味を高めさせる。  
協働的に学び合うための授業づくりの工夫として、俳句のよさを見つける視点を3つ示す。「お気に入りの言葉、自分と同じところ、気持ちが表れている所」を視点としながら、俳句を読んだときに感想を発表し合う。発表する支援として、よさ見つけシートを用意する。自分の考えをもつことが難しい児童のために、言葉の選択肢を用意し、それをもとに発表させる。俳句を作るときには、切れ字や比喻などの言葉を提示しておき工夫の支援とする。俳句を作ることが難しい児童には、五七五の短冊カードに書かせていくことで、入れかえたり並べ替えたりしながらスモールステップで学習に取り組ませていく。語彙を増やすために、事前に体験学習を行ったり、俳句を作る前に写真や映像を見ながらたくさんの言葉を集めたりする。また、五七五のうちの始めの五文字か最後の五文字を見本として示すことにより作りやすくする。俳句絵本作り以外にも、朝の会に「今日の一句」として俳句を紹介したり、虫食い俳句や並べ替え俳句でクイズを出したりする。教室には、俳句の本コーナーを設置し、いつでもだれでも俳句の本や季節の本を手にとり読めるようにしておく。また、季語を教室に掲示したり、日記や物語などいろいろな題材で俳句を作る活動を行ったりすることで、俳句作りへの抵抗を少なくしていく。また、自立の時間等を活用し、「俳句かるた」を行うことで、俳句への興味を継続させていく。さらに、児童が作った俳句から一人一句選んで「のびっこ俳句コンテスト」を実施し、票をたくさん集めた児童を優秀賞として表彰することでさらに意欲を高めていきたい。

## 指導改善ポイント

- 語彙を増やし、自分の考えをもたせることで、くわしく説明できるようにする。
- 自分と友達の俳句を比べることで、考えを広げようとする。

### 【指導の工夫】

- 体験活動や写真等からたくさんの季語を集めたり、様子や動作を表す言葉や気持ちを掲示したり、発表の型を示したりする。
- 俳句のよさを見つける視点を示し、感想カードを用意して発表させる。

### 【城北中学校区共通の授業改善の視点】

- ・ J (じっくり考える) …俳句の説明文をじっくり考えさせる。
- ・ H (はっきり表現する) …友達の俳句の感想をはっきり表現させる。
- ・ K (繰り返し粘り強く挑戦する) …繰り返し同じ流れで学習させる。

## 4 単元の目標・つきたい力

### 単元の目標

- 俳句を作ることに興味をもち、好きな俳句を選んだり俳句絵本を作ったりしようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 自分の思いや考えをまとめ、発表することができる。(1・2年 読むこと オ)
- 自分の考えを発表し、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。(3・4年 読むこと オ)
- 自分の考えを発表し、自分の考えを広げたり深めたりできる。(5・6年 読むこと オ)
- 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。(1・2年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア))
- 俳句の情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすることができる。(3・4年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(ア))
- 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて興味をもつことができる。(5・6年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(カ))

### つきたい力

- 1・2年
  - 自分の思いや考えを発表する力
  - ㊦ 俳句や説明文を発表する力
- 3・4年
  - 自分の考えを発表し、一人一人の感じ方の違いに気付く力
  - ㊦ 俳句や説明文を発表し合い、お気に入りを見つけることを通して、感じ方の違いに気づく力
- 5・6年
  - 自分の考えを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする力
  - ㊦ 俳句や説明文を発表し合い、友達と比べることを通して、自分の考えを広げる力

次学年へのつながり

学習指導要領〔C 読むこと〕

【第1学年及び第2学年】

オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。

【第3学年及び第4学年】

オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

【第5学年及び第6学年】

オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。

【中学校第1学年】

オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。

## 5 単元の観点別評価規準

児童	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
「俳句を読んで感想を伝え合う言語活動」を通じた指導 [具体的な言語活動：『俳句絵本』を作ろう]			
1・2年	○俳句を作ることに 関心をもち、好きな 俳句を選んだり、俳 句絵本を作ったり しようとしている。	◎俳句や説明文を発表 している。(オ)	○言葉には、事物の内容 を表す働きや、経験し たことを伝える働きが あることに気付いてい る。イ(ア)
3・4年		◎俳句や説明文を発表し 合い、お気に入りを見つ けることを通して感じ 方の違いに気付いてい る。(オ)	○俳句の情景を思い浮か べたり、リズムを感じ 取りながら音読や暗唱 をしたりしている。 ア(ア)
5・6年		◎俳句や説明文を発表し 合い、友達と比べるこ とを通して、自分の考 えを広げている。(オ)	○語感、言葉の使い方 に対する感覚などにつ いて関心をもっている。 イ(カ)

6 指導と評価の計画

(全17時間 本時☆印)

学期	次	・ 学習内容 (時数) ◎ 中心発問	評 価					
			関	読	言	評価規準 (評価方法)		
						1・2年	3・4年	5・6年
一 学期	一	・ 付けたい力を確認し、単元のゴールを決め、学習計画を立てる。(1/17)	◎			・ 俳句絵本を見て、学習の見通しをもち、俳句絵本作りに興味をもっている。(態度、発表)		
	二	・ 春の俳句を作る。(2/17) ◎春の俳句を作りましょう。	○		◎	・ 興味をもって俳句を作っている。(態度) ・ 季語に関わる言葉を入れながら俳句を作っている。(俳句)		
		・ 春の俳句絵本を作る。(3,4/17) ◎俳句に合う絵や説明文を書き、交流しましょう。			◎	・ 俳句や説明文を発表している。(発表)	・ 俳句や説明文を発表し合い、お気に入りを見つけることを通して感じ方の違いに気付いている。(発表、感想カード)	・ 言葉の意味や情景を思い浮かべている。(俳句)
		・ 夏の俳句を作る。(5/17) ◎夏の俳句を作りましょう。	○		◎	・ 興味をもって俳句を作っている。(態度) ・ 季語に関わる言葉を入れながら俳句を作っている。(俳句)		
		・ 夏の俳句絵本を作る。(6/17) ◎俳句に合う絵や説明文を書き、交流しましょう。			◎	・ 俳句や説明文を発表している。(発表)	・ 俳句や説明文を発表し合い、お気に入りを見つけることを通して感じ方の違いに気付いている。(発表、感想カード)	・ 俳句や説明文を発表し合い、友達と比べることを通して、自分の考えを広げている。(発表、感想カード)
		・ 第4回俳句コンテストを開く。(7/17) ◎好きな俳句を選んで感想を交流しましょう。	◎			・ 好きな俳句を選んで、感想を述べている。(発表)		
二 学期 ☆ の 3 の 4 の 5	二	・ 夏の俳句絵本を作る。(8/17) ◎俳句に合う絵や説明文を書き、交流しましょう。			◎	・ 俳句や説明文を発表している。(発表)	・ 俳句や説明文を発表し合い、お気に入りを見つけることを通して感じ方の違いに気付いている。(発表、感想カード)	・ 俳句や説明文を発表し合い、友達と比べることを通して、自分の考えを広げている。(発表、感想カード)
	三	・ 秋の俳句を作る。(9/17) ◎秋の俳句を作りましょう。	○		◎	・ 興味をもって俳句を作っている。(態度) ・ 季語に関わる言葉を入れながら俳句を作っている。(俳句)		
		・ 秋の俳句絵本を作る。(10,11/17) ◎俳句に合う絵や説明文を書き、交流しましょう。			◎	・ 俳句や説明文を発表している。(発表)	・ 俳句や説明文を発表し合い、お気に入りを見つけることを通して感じ方の違いに気付いている。(発表、感想カード)	・ 俳句や説明文を発表し合い、友達と比べることを通して、自分の考えを広げている。(発表、感想カード)
		・ 冬の俳句を作る。(12/17) ◎冬の俳句を作りましょう。	○		◎	・ 興味をもって俳句を作っている。(態度) ・ 季語に関わる言葉を入れながら俳句を作っている。(俳句)		
		・ 第5回俳句コンテストを開く。(13/17) ◎好きな俳句を選んで感想を交流しましょう。	◎			・ 好きな俳句を選んで、感想を述べている。(発表)		
		・ 冬の俳句絵本を作る。(14,15/17) ◎俳句に合う絵や説明文を書き、交流しましょう。			◎	・ 俳句や説明文を発表している。(発表)	・ 俳句や説明文を発表し合い、お気に入りを見つけることを通して感じ方の違いに気付いている。(発表、感想カード)	・ 俳句や説明文を発表し合い、友達と比べることを通して、自分の考えを広げている。(発表、感想カード)
三 学期	三	・ 第6回俳句コンテストを開く。(16/17) ◎好きな俳句を選んで感想を交流しましょう。	◎			・ 好きな俳句を選んで、感想を述べている。(発表)		
	三	・ 読書会を開く。 ・ 学習を振り返ってまとめる。(17/17)	○		◎	・ 友達の『俳句絵本』を読み、感想を書いている。(感想カード) ・ 単元の学習を通して付いた力を具体的に振り返っている。(あとがき)		

## 7 本時の学習

### (1) 本時の目標 (第11時/全17時)

- 1・2年 俳句や説明文を発表することができる。
- 3・4年 俳句や説明文を発表し合い、お気に入りを見つけることを通して、感じ方の違いに気付くことができる。
- 5・6年 俳句や説明文を発表し合い、友達と比べることを通して、自分の考えを広げることができる。

### (2) 授業の視点

俳句に合わせた絵や説明文を書くことを通して、自分の考えをまとめることができる。また、視点をもたせて発表させたり、発表を聞かせることで、自分の考えを広げさせる。

### (3) 本時の学習展開

※次ページ

(3) 本時の学習展開【自閉症・情緒障害特別支援学級1組(のびっこ3)】

	学習活動 ◎発問・予想される児童の反応	・指導上の留意事項 ☆つまずきへの支援 ◆【観点】評価規準(評価方法) 役割分担(T1, T2)						
		全体	3年A	3年B	3年C	5年D・6年G・H	6年E・F	
課題の提示(5)	1 学習活動の流れを確認する。	☆「学習の流れ」を提示する。 K(くりかえし挑戦する) ・繰り返し同じ流れで学習させる。	友達の俳句や説明文を聞いて、お気に入りの言葉を発表する。			友達の俳句や説明文を聞いて、気持ちが表れている所や似ている所を見つける。		
	2 本時のめあてを確認し、振り返りの視点を設定する。 3 作った俳句を発表する。	☆振り返りの視点は、例を挙げて決めさせる。 ・今日の学習で説明する俳句を事前に選ばせ、板書しておく。 ☆作った俳句の思いを引き出す。	A 理由を付けて、○回以上発表する。			A ○人以上の友達の俳句のよさを見つける。		
課題の解決(30)	4 俳句絵本を作る。 ・俳句 ・説明文 ・絵	☆説明文に書く表現の型を提示する。 ・絵を描くことが難しい児童は、写真を用意して選ばせ、俳句絵本に貼らせる。 J(じっくり考える) ・説明をじっくり考えさせる。	☆俳句の様子を聞きながら言った言葉を文字になぞらせる。(T1)  ☆絵は描かないので、写真(イラスト)を貼らせる。(T1)	☆説明文や感想を褒めて自信をもたせる。(T2)	☆説明文や感想を褒めて自信をもたせる。(T2) ☆恥ずかしくて声が出せない時には、 ①そばで一緒に言う。(T2) ②離れて途中まで一緒に言う。(T2) 支援を行い、頑張って発表したことを褒める。	・G児をリーダーとして学習を進めさせる。  ☆助詞や文末がおかしい時には、その部分を教えて考えさせ、分からない時には、正しい助詞や文末を教える。(T1,T2)	☆F児は、俳句の様子を聞きながら言った言葉を文字になぞらせる。(T2)  ☆説明文や感想を褒めて自信をもたせる。(T1) ☆恥ずかしくて声が出せない時には、 ①かわりに読む。(T1) ②離れて一緒に言う。(T1) 支援を行い、頑張って発表したことを褒める。	
	5 発表する。 6 俳句のよさを見つけて、感想を書く。 7 交流する。 ◎友達の俳句のいいなと思ったところを発表しましょう。 ・〜くんの俳句の○○という言葉から○○な気持ちを感じ取ることができました。	・発表する時に、実物投影機で描いた絵を映す。 ☆俳句のよさを見つける視点を3つ提示する。 ☆よさ見つけシートに書き込ませる。 ・俳句の横によさの視点ごとに分けたマークを貼る。 ☆友達の発表を聞く視点を示す。 H(はっきり表現する) ・感想をはっきり表現させる。	☆発表の順番を決めさせる。(T1)  ☆どんな考えでも否定せずに聞く。(T1,T2)	◆【読む能力】 お気に入りの発表し合うことを通して、感じ方の違いに気付いている。(発表、感想カード)	◆【読む能力】 気持ちが表れている所や似ている所を見つけることを通して、自分の考えを広げている。(発表、感想カード)			
振り返り(10)	8 本時のまとめ・振り返りをする。	☆自分で振り返りが難しい児童には、話型を提示する。 ・花丸を付けて評価する。	○○という言葉は○○な気持ちを表し、○○という言葉から○○な様子を感じ取ることができる。(今日の発見)					
	9 次時の活動について確認する。		ぼく(わたし)は、○回発表しました。ぼく(わたし)は、○○という言葉を使ってみたと思いました。			ぼくは、○人のよさを見つけました。ぼくは、○○くんが発表した〜の考えがよかったです。		

(3) 本時の学習展開【自閉症・情緒障害特別支援学級2組(のびっこ4)】

	学習活動 ◎発問・予想される児童の反応	・指導上の留意事項 ☆つまずきへの支援 ◆【観点】評価規準(評価方法)					
		全体	2年A・B	4年C・D・E	5年F	5年G/6年H	
課題の提示(5)	1 学習活動の流れを確認する。	☆「学習の流れ」を提示する。 K(くりかえし挑戦する) ・繰り返し同じ流れで学習させる。	自分の俳句や説明文を発表する。	友達の俳句や説明文を聞いて、お気に入りの言葉を発表する。	友達の俳句や説明文を聞いて、お気に入りの言葉や表現の工夫を発表する。		
	2 本時のめあてを確認し、振り返りの視点を設定する。 3 作った俳句を発表する。	☆振り返りの視点は、例を挙げて決めさせる。 ・今日の学習で説明する俳句を事前に選ばせ、板書しておく。	A ○回以上お気に入りの言葉を発表する。	A 理由を付けて、○回以上お気に入りの言葉を発表する。	A 理由を付けて、○回以上お気に入りの言葉や表現の工夫を発表する。		
課題の解決(30)	4 俳句絵本を作る。 ・俳句 ・説明文 ・絵	☆説明文に書く表現の型を提示する。 J(じっくり考える) ・説明をじっくり考えさせる。	☆思いを聞きながら、説明文の書き方を指導する。	☆思いを聞きながら、説明文の書き方を指導する。	☆時間内に絵本作り(絵と説明文)が難しいので、説明文は、事前に書いたものを用意する。		
	5 俳句絵本を発表する。 6 交流する。 ◎友達の俳句のいいなと思ったところを発表しよう。 ・～くん(さん)の俳句の○○という言葉から○○な気持ちを感じ取ることができました。	・前に出て、絵を見せながら発表させる。 ☆俳句のよい所を見つける視点を提示する。 H(はっきり表現する) ・友達の俳句のよい所をはっきり表現させる。	☆恥ずかしくて声が小さい時には、側にいて、一緒に読んだり励ましたりする。 ☆がんばって発表した時はしっかりほめる。 ◆【読む能力】 自分の俳句や説明文を発表している。(発表)	☆恥ずかしくて声が出せない時には、側にいて、一緒に読む。 ☆発表ができない時は、補助発問を行い、発表を促す。 ◆【読む能力】 お気に入りの言葉を発表し合うことを通して、感じ方の違いに気付いている。(発表)	・落ち着いて友達の発表を聞かせる。 ☆発表することが得意なので、友達の俳句のよい所を進んで発表するように促す。 ◆【読む能力】 お気に入りの言葉や表現の工夫を発表し合うことを通して、自分の考えを広げている。(発表)	・低、中学年のお手本になるような声の大きさを発表させる。 ☆緊張せずに進んで発表した時には、しっかりほめて自信をもたせる。	
振り返り(10)	7 本時のまとめ・振り返りをする。	・本時のまとめは、教師がする。 ☆話型を提示し、発表しやすいようにする。 ・花丸を付け評価する。	○○という言葉から様子や思いを感じ取ったり、表現の工夫を見つけたりすることができた。(今日の発見)				
	8 次時の活動について確認する。		ぼくは、(私は、)○回発表しました。特に～くん(さん)の俳句の○○の所がよかったです。	ぼくは、(私は、)○回発表しました。特に～くん(さん)の俳句の○○の所がよかったです。理由は、○○だからです。	ぼくは、(私は、)○回発表しました。特に～くん(さん)の俳句の○○の所や○○の表現がよかったです。理由は、○○だからです。		

(3) 本時の学習展開【自閉症・情緒障害特別支援学級3組(のびっこ5)】

	学習活動 ◎発問・予想される児童の反応	・指導上の留意事項 ☆つまずきへの支援 ◆【観点】評価規準(評価方法)			
		全体	1年A・B	2年C・D	3年E 4年F・G・H
課題の提示(5)	1 学習活動の流れを確認する。	☆「学習の流れ」を提示する。 K(くりかえし挑戦する) ・繰り返し同じ流れで学習させる。		自分が作った俳句とその説明文を発表する。	友だちの俳句から、お気に入りの言葉と理由を発表する。
	2 本時のめあてを確認し、振り返りの視点を設定する。 3 作った俳句を発表する。	☆振り返りの視点は、例を挙げて決めさせる。 ・今日の学習で説明する俳句を事前に選ばせ、板書しておく。		A お気に入りの言葉を○以上見つける。	A 友だちの俳句から、お気に入りの言葉と理由を○以上見つける。
課題の解決(30)	4 俳句絵本を作る。	☆説明文に書く表現の型を提示する。 J(じっくり考える) ・説明をじっくり考えさせる。	☆A児 俳句の様子を聞きながら、言った言葉を整理して伝え、書かせる。 ☆B児 俳句の様子を聞いて、説明文の下書きを書く。それをなぞらせる。	☆俳句の様子を聞きながら、言った言葉を整理して伝え、書かせる。 ☆C児 自分の世界に入って動きが止まることがあるので、声をかけて、学習の内容を意識させる。 ☆D児 絵を描くことが苦手なので、下絵を描いて輪郭をなぞらせて色を塗らせる。	☆助詞や文末がおかしい時には、その部分を教えて考えさせ、分からない時には、正しい助詞や文末を教える。 ☆説明文と絵を速やかに終わらせることがあるので、予備の俳句プリントを準備しておく。
	5 発表する。 6 友だちの俳句からお気に入りの言葉を見つける。3・4年は、理由を書く。 7 交流する。 ◎「友だちの俳句から気に入った言葉を発表しましょう。」 「～くんの俳句の○○という言葉が気に入りました。」(1・2年) 「～くんの俳句の○○という言葉が気に入りました。わけは、○○な気持ちを感じたからです。」(3・4年)	☆どんな考えでも否定しないで聞く。 ・お気に入りマークを貼る。 H(はっきり表現する) ・感想をはっきり表現させる。	☆B児 周囲が気になって声が出せない時には、 ①そばで一緒に読む。 ②代わりに読む。	☆D児 先に同じ意見が発表されると発表できなくなることがあるので、同じ意見を繰り返して発表できることを伝える。	☆自由発表の場面では、一人遊びを始めることがあるので、参加するように声をかける。 ◆【読む能力】 俳句や説明文を発表し合い、お気に入りの言葉を見つけるを通して感じ方の違いに気付いている。(発表、感想カード)
振り返り(10)	8 本時のまとめ・振り返りをする。 9 次時の活動について確認する。	☆自分で振り返りが難しい児童には、話型を提示する。		ぼくは、○○な声で俳句を発表しました。	ぼくは、～くんの○○という言葉が気に入りました。ぼくの俳句に使ってみたいと思いました。
				ぼくは、お気に入りの言葉を○こ見つけました。	